

角川、山川などの『世界史辞典』より

## 満州事変 9.18 事変とも。

1931年9月18日に始まる日本の中国東北地方侵略戦争。

関東軍の謀略による柳条湖事件に始まった。

日本政府は、不拡大方針をとったが、関東軍は軍事行動を全東北に拡大した。

国民政府は、不抵抗主義（軍事的抵抗はしない）をとって国際連盟に提訴した。

32年3月に満州国が建国され、33年には熱河（ネッカ）省を編入し、塘沽（タンクー）停戦協定が結ばれた。

他方、国際連盟は、リットン調査団を派遣し、その報告書を採択して日本軍の撤退を勧告したため、日本は国際連盟を脱退した。

## 柳条湖事件

満州事変の発端となった南満州鉄道株式会社（満鉄）線爆破事件。

関東軍参謀の石原莞爾、板垣征四郎らは満蒙領有計画に基づき、1931年9月18日夜、奉天（瀋陽）郊外の柳条湖で満鉄線路を爆破（音だけとの説もある）、これを中国軍のしわざであるとして、直ちに張学良配下の東北軍の北大営を攻撃。さらに、沿線主要都市を占領。

日本政府は不拡大を声明したが、関東軍はこれを無視して東北地方全域に侵攻した。

東北軍は、蒋介石の不抵抗政策により、軍事的抵抗はしなかった。

## リットン調査団

満州事変の原因を調査するために1932年国際連盟が派遣した調査団。リットンを団長とする調査団は、東京、上海、南京、漢口、北平（北京）を経て、4月20日から6月4日東北地方を調査して報告書を作成した。

報告書は、日本の在満権益を認める一方、満州事変での日本軍の行動を正当な自衛の範囲外であり、満州国建国も住民の自発的な運動によるものではないと判断した。

33年2月連盟総会でこの報告書に基づく勧告が可決されると、日本は連盟を脱退した。

## 満州国

満州事変により日本が中国東北に建設した傀儡国家。

溥儀を執政として1932年3月1日建国され、33年には熱河省を編入。首都は新京（長春）、年号は大同、国旗は五色旗とし、五族協和を唱え、34年、帝制に移行。

行政機関の長官は中国人が就任したが、関東軍は日系官吏を通じて支配した。

重工業化を目指したが、日中全面戦争勃発により挫折。また、抗日連軍などの武力抵抗に直面し、徹底的弾圧をおこなった。日本の敗戦とともに消滅。

## 溥儀

角川、山川などの『世界史辞典』より

**清朝第12代最後の皇帝、宣統帝。**在位 1908—12.

姓は愛新覺羅、字は浩然。

辛亥革命により退位したが、優待条件により皇帝の称号と年金を受け、紫禁城にとどまった。

24年馮玉祥（ふうぎょくしょう）のクーデタにより日本公使館に逃れ、翌年天津の日本疎開に移った。

柳条湖事件後、関東軍に担ぎ出されて、**満州国**執政に就任。34年、帝制移行に伴い、**皇帝**となった。

戦後ソ連に抑留され、50年帰国。戦犯収容所に入り、59年特赦で出所。64年政治協商会議全国委員会委員となった。

**馮玉祥**（ふうぎょくしょう）1882—1948

中国の軍人。キリスト教將軍とも呼ばれる。**直隸派**だったが、**三民主義**に共鳴。1924年北京で反直隸派の政変を起こし、国民軍を組織し**国民党**に入党。

30年**反蒋介石**に転じたが敗北。

満州事件以後**国民党**に復帰。

33年抗日同盟軍を率いて関東軍と戦った。

大戦後は**反蒋介石派**として活躍。

## 直隸派

1910—20年代、中国直隸（現河北）省出身の馮国璋（ふうこくしょう）を中心に形成された**北洋軍閥**（清末の北洋大臣袁世凱指揮下の軍閥）の一派。

袁世凱の死（1916）後、北京政府を掌握した**安徽派**と対立した。

19年馮の死後、曹錕（そうこん）が首領となり、20年**安直戦争**に勝利し、**奉天派**と北京連合政権を樹立。22年第一次**奉直戦争**で奉天派を破り、全盛期を迎えたが、

24年第2次奉直戦争に大敗して勢力を失い、

28年**北伐**により消滅した。

## 北伐

中国**国民革命軍**が広州から北上し、**北京政府打倒と全国統一**を達成した軍事行動。

2段階で展開された。

第1次は、1926年7月正式に開始を宣言。総司令蒋介石や唐生智のもとで直隸派の北軍を破ったもの。これにより、武漢、南昌、南京、上海を占領したが、党内対立や武漢国民政府と南京国民政府の対立、日本の山東出兵などで中断した。

第2次は、南京国民政府のもとで28年4月に再開され、奉天派**張作霖**と戦い、**済南事件**などの日本の干渉があったが、6月北京を占領、北伐は完了。